

今週（11月20日から11月24日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が360兆円台前半で推移する中、無担保コールO/N物は、積みの序盤ということもあって調達側の慎重姿勢が見られ、週を通して低下基調となった。

無担保コールO/N物は、先週末同様に信託・地銀・証券業態の調達を中心に、都銀業態の調達ニーズは乏しい展開であった。加重平均は、20日こそ先週末と同水準の▲0.047%であったものの、21日以降は▲0.05%台にレートが低下。全般的に調達意欲は減退基調で、信託業態▲0.07～▲0.06%、地銀業態▲0.07～▲0.04%、証券業態▲0.07～▲0.05%が出合いの中心となった。ターム物は地銀業態を中心に、1～2Wで▲0.04～▲0.035%の出合い。証券業態では期越えの調達が散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、22日に2W・8,000億円でオファーされ、落札額2,210億円（期落ち額1,310億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.11～▲0.09%のレンジでの取引となった。

週前半は投資家の資金調達意欲が弱く、▲0.11～▲0.10%程度での引き合いから始まり、22日のS/N(27-28)の取引はTDB3M物発行日にあたったことで、資金調達意欲がやや強まり▲0.10～▲0.09%程度での引き合いと上昇した。24日のS/N(28-29)の取引は投資家の資金調達が入り、▲0.105～▲0.09%での出合いとなった。

SCは個別銘柄では5y130～133、10y335～348、20y160～162、30y50～56、40y10などのカレント銘柄近辺や、チーパスト周りの銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き年末越えの担保需要や海外勢の買いへの期待から強含みで推移した。また、先週末に日銀買入オペが増額（10日：1,000億円、17日：5,000億円）されたことも相場の下支え要因となった。

22日に実施された3M物の入札では、WI取引において▲0.26%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.2538%、按分落札利回▲0.2456%と強い結果になった。セカンダリーでも、▲0.263～▲0.26%の出合いと堅調に推移した。

24日に実施された短国買入オペは、事前予想通りの2,500億円でオファーされた。利益確定の売りが出たのか、平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回り較差+0.004%と小甘い結果となった。

11月中の短国買入オペのオファー額は9,500億円となり、11月末の日銀の短国買入残高は19兆2,151億円となるが見込まれ、10月末に日本銀行が示した「概ね20兆円台前半」程度の残高見込みから若干下振れとなった。

●CP市場

今週のCP市場は、25日にかかる発行があり、電機・機械、商社・化学業態等の大型発行が見られ、週間償還総額約3,200億円に対し、週間発行総額は約5,300億円程度と発行超となった。発行残高は引き続き16兆円台を維持しており、市場残高、積み上がりのペース共に昨年を上回っている。a-1格以上の発行レートは、発行頻度が低いかつ期間の長い銘柄では▲0.005～▲0.003%近辺での強めの出合いも見られたものの、それ以外の銘柄に関してはCP等買入オペの按分レートが2回連続で、▲0.001%となっていることもあり、概ね浅いマイナスから0%近辺での推移となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/20 (月)	22,261.76	0.030	112.00	△ 0.047	△ 0.102	3,625,800
11/21 (火)	22,416.48	0.025	112.60	△ 0.050	△ 0.102	3,641,000
11/22 (水)	22,523.15	0.020	112.33	△ 0.054	△ 0.101	3,633,600
11/23 (木)						
11/24 (金)	22,550.85	0.025	111.45	△ 0.054	△ 0.099	3,629,100

# 来週（11月27日から12月1日）の短期金融市場動向

## ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
11/27 (月)	10月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)			10月の米新築一戸建て販売件数
11/28 (火)	月例経済報告(内閣府)	40Y 5,000億円 11/30発行	交付税借入 10,500億円 12/6借入	9月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 11月の米CB消費者信頼感指数
11/29 (水)	時事通信社主催金融懇話会にて中曽副総裁講演 10月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)			米ページブック 7-9月期の米GDP改定値
11/30 (木)	福島県金融経済懇話会にて原田審議委員講演 10月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 10月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 44,000億円 12/4発行	2Y 22,000億円 12/15発行	10月の米個人所得・消費支出 11月のシカゴPM景況感指数 11月のユーロ圏消費者物価指数速報値
12/1 (金)	10月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 11月都区部・10月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 10月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 7-9月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)			10月の米建設支出 11月のISM 製造業景況指数

## ●資金需給予想

単位: 億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/27 (月)	▲ 100	▲ 2,500	▲ 2,600	全店共通 国債買入 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,300	2,200 9,700	11,000	8,400	TB3M発行▲44000償還41100 国債林野借入▲700期日500
11/28 (火)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	社債買入 国債買入 短国買入		800 3,200 2,500	6,500	4,500	
11/29 (水)	▲ 2,000	▲ 1,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
11/30 (木)	▲ 1,400	▲ 600	▲ 2,000	CP買入		2,000	2,000	0	地方法人特別税 40Y発行▲5000 交付税借入▲10500期日10500
12/1 (金)	▲ 2,000	▲ 12,000	▲ 14,000	成長基盤	▲ 600		▲ 600	▲ 14,600	
週間合計	▲ 6,500	▲ 17,100	▲ 23,600	—	▲ 2,100	21,000	18,900	▲ 4,700	

11/27は日銀予想、11/28以降は当社予想

## ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、月末を控えて様子見の展開が見込まれ、無担保コールO/Nは▲0.05%台で弱含みの推移が予想される。30日はビッドサイドが減少するため、レートの下が見込まれる。

レボ市場は、日銀オペ等を通して業者の売物は減少していくと見られるが、積み期間の後半にかけては投資家の資金調達意欲が高まることも考えられ、足元GCは▲0.11～▲0.09%程度の推移と予想する。

短国市場は、30日に3M物の入札が実施予定となっており、相場は引き続き堅調な推移が予想されるものの、海外投資家の動向次第ではレートが上昇する可能性も考えられる。1日に実施が見込まれる短国買入オペについては、12月の償還額が4兆1,341億円と多く、これに見合った額がオファーされるのか、それとも短国のレートが深いマイナスで推移していることを意識した額がオファーされるのか、が注目される。

CP市場は、月末に向けた法人税や賞与の手当て等で、発行が活発になることが期待される。27日にCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっており、落札水準が注目される。

主要なイベントとしては、国内では1日に10月の全国CPI、海外では29日にページブック、30日に11月のユーロ圏CPI速報値などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまふようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録等をよくお読みください。